

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	定期文化事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	高木奈保子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	01	芸術文化活動の推進				
事業の目的	さくら市民が芸術鑑賞の機会を増やす事により、文化芸術への理解の向上や市民の事業参画、文化芸術活動の活発化を目指す。						
事業の概要	定期的に文化芸術の良さを素晴らしさが市民に伝わるような文化振興事業を実施。幅広く質の高い出演者を選定し、市民への参加選択肢を広げる。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	4,241	6,321	3,761			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	活動	定期文化事業参加者数	人	3,080	3,793	2,400	2,400
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	計画通りの事業を実施し、目標3,300人に対し3,793人と目標を達成することができた。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	児童生徒対象文化芸術振興事業			事業開始年度	平成19年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	高木奈保子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	01	芸術文化活動の推進				
事業の目的	質の高い芸術鑑賞が行えるようにする。芸術を学ぶ児童生徒の技術向上のきっかけが提供される。児童生徒の時期に芸術、文化への理解、興味が抱かれる。						
事業の概要	各校に内容や日程の調整を実施して、候補となる芸術家に交渉、実施の運びとなる。小学校は45分間、中学校50分程度の芸術鑑賞機会の提供を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	395		499		804	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	成果	音楽鑑賞教室に参加した児童・生徒の数	人	2,234	2,323	3,646	3,646
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず					
	説明	市内小中学校の児童生徒に質の高い芸術鑑賞機会を提供することができた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	野州田植唄保存会補助事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	市指定の無形民俗文化財の保護を継続し、野州田植唄を唄える市民が絶えず、保存されることを目的とする。						
事業の概要	市指定の無形民俗文化財を保護するとともに団体・後継者の育成を行うため、補助金（年間65,000円）による支援を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	65		65		65	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	活動	活動日数	日	12	20	26	26
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず					
	説明	新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことで、練習等も通常通り行えるようになり、保存会に4名の新規加入があった。「ゆめ さくら博」や、瀧澤家住宅でのイベント等で田植唄を披露し、市内外からの来館者に広く周知することができた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	代々岩戸神楽保存会補助事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	市指定の無形民俗文化財の保護を継続し、代々岩戸神楽を舞える市民が絶えず、保存されることを目的とする。						
事業の概要	市指定の無形民俗文化財を保護するとともに団体・後継者の育成を行うため、補助金（年間69,000円）による支援を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	69		69		69	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	活動	活動日数	日	10	15	20	20
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず					
	説明	新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、通常通り練習ができるようになった。神社での奉納の機会は無かったが、瀧澤家住宅で「市指定無形民俗文化財披露イベント」を開催し、市内外からの来館者に広く周知した。後進の育成や、衣装等の維持管理に努めた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	文化財保護事務			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	市指定文化財が適切な形で将来に向け保護管理されること。文化財保護法にある一般公開が適切に行われること。市民が指定文化財への理解の高揚を目的とする。						
事業の概要	市内指定文化財の周知、普及啓発、維持管理及び指導助言や事務。さくら市文化財保護審議会からの指導助言を得る。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	416	645	673			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	成果	指定文化財数	件	215	215	215	215
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	市内にある文化財の保護活動が適切に行われた 感染症対策により中断していたさくら市指定文化財の所蔵調査を再開した					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	さくら市歴史資料保存・活用事業			事業開始年度	平成22年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	継続して市の貴重な歴史資料調査を実施することで市の歴史を伝える貴重な歴史資料が散逸することなく収集され、これを市民が活用し、後世に継承する。						
事業の概要	氏家町史・喜連川町史編さん事業で収集した歴史資料を整理保存する。 市内の歴史資料調査を継続して実施し、収集を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	6,491		10,232		7,211	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	成果	保存された延べ歴史資料数（歴史的行政文書）	点	10,297	10,633	10,933	11,233
	成果	今年度収蔵の歴史資料	点	385	336	300	300
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	令和5年度は歴史的行政文書336点を収蔵した。 B&G財団の助成を受けて歴史マンガ「足利島子」を刊行した。市内各学校へ配布し、歴史教育に活用してもらう。一般販売も行い、さくら市の歴史を広く周知する。 ○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
見直し余地	判定						
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	旧役場庁舎移築復元事業			事業開始年度	昭和22年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	文化財を復元し、将来にわたってその価値が損なわれない状態で保存・公開し、市民が郷土の歴史を学習する。						
事業の概要	さくら市有形文化財である旧氏家町役場庁舎と旧熟田村役場庁舎を解体し、ミュージアム民家広場西側へ復元し保存する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	0	0	0			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	活動	復元旧役場庁舎㎡あたり維持管理費	円/㎡	0	0	0	0
	活動	復元旧役場庁舎利用者数		0	0	0	0
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ○多少は達成した ●達成できず					
	説明	事業実施のためには、利活用計画の策定が必要。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	市指定文化財修理補助事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	後世まで保存していく必要のある市指定文化財を、修理等により保存していくことを目的とする。						
事業の概要	市指定文化財を保存していく上で、修理が必要となった場合その補助対象経費の1／2以内（上限500万円）を限度として補助する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	30	0	1,556			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	成果	補助金を受けて修理した件数	件	1	0	1	3
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ○多少は達成した ●達成できず 令和5年度は指定文化財所有者より補助金の申請が無かった。					
	説明						
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小	業務量	●拡大 ○現状 ○縮小			

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	瀧澤家住宅保存事業			事業開始年度	平成25年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	適正な維持管理をしながら、施設の積極的な利活用を行っていく。その中で、市民が積極的に利用し、また、さくら市の地域振興にもつながる文化財施設にしていく。						
事業の概要	県指定文化財瀧澤家住宅を保護や維持管理をしながら平成27年度に策定した利活用計画や平成29年度策定予定の整備計画に従い、修理や整備、利活用を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	6,139		8,433		8,424	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	成果	利用者数	人	7,622	4,135	2,000	2,000
達成度の 評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	市内外で活動する市民・団体等の活動発表の場として活用することで多くの来館者があり、周辺の活性化や、文化財としての建物の周知につながった。 保存に必要な修繕・工事（中庭板塀の修繕、火災報知設備改修等）を実施した ○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
見直し余地	判定						
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	歴史・文化を通じた地域づくり事業			事業開始年度	平成25年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	高木奈保子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	文化財の積極的利活用とその周知。市民の文化財保護意識の高揚。若い世代の文化財保護意識の浸透と実施経験実現。						
事業の概要	さくら市の文化振興や瀧澤家住宅などの文化財の活用や周知を市民と連携して実施する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	1,190	399	3,261			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	活動	歴史・文化を通じた地域づくり事業参加者数	人	7,981	4,381	2,200	2,200
	活動	講座・事業数	件	5	2	3	3
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	こども向けの伝統文化体験教室の開催、瀧澤家住宅を会場とした伝統文化体験教室、などの実施により、幅広い世代にさくら市の歴史と文化の発信を行うことができた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小	業務量	○拡大 ●現状 ○縮小			

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	ミュージアム施設維持管理事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	藤枝 民雄		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	ミュージアムの充実				
事業の目的	年間を通じて正常な運営（管理）を行う。						
事業の概要	ミュージアムー荒井寛方記念館ーの適切な維持管理						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	56,707	30,466	50,832			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	成果	延べ床面積 1㎡あたりに要する費用	円	19,628	10,531	17,595	12,115
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	保守管理業務等をはじめ、計画通りの事業実施が行われ適正な運営ができた。 節電に努めたことで、光熱水費を大幅に削減することができた。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	特別・企画展等開催事業			事業開始年度	平成26年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	大木礼子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	ミュージアムの充実				
事業の目的	博物館資料の展示・公開を通じて、地域の歴史、民俗、自然等を学び、地域への理解・関心・愛着を高めてもらう。						
事業の概要	テーマを持たせた資料観覧の機会を提供する。 ①企画展の開催 ②ギャラリー・トーク ③作品解説会・講演会						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	7,794		9,575		8,757	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度 実績	5年度 実績	6年度 計画	7年度 計画
	成果	特別・企画展入館者数	人	17,495	32,303	23,000	23,000
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	R5年度を開館30周年記念と位置づけ、記念行事等を増やして展示業務を行った。年間の入館者数は32,303人と指標を上回った。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	博物館作品購入等事業			事業開始年度	平成26年度		
担当課	教育委員会　ミュージアム			担当者	大木礼子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	ミュージアムの充実				
事業の目的	郷土の歴史や美術など資料や作品を収集保存し、展示や調査研究の充実化を図る。郷土の歴史や文化に対する市民の理解を深めるとともに、後世に伝える。						
事業の概要	郷土の歴史や美術に関わりの深い資料や作品を未来に残すために購入する。併せて収蔵資料を拡充しながらこれらを企画展等により一般に公開する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度		5年度		6年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	0		5,300		20,200	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	成果	購入並びに寄託、寄贈資料・作品収蔵数	点	29,119	29,191	29,191	29,191
			点				
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した　○多少は達成した　○達成できず					
	説明	博物館活動に必要な、資料・作品の収蔵が行われた。美術作品10点の寄贈、1点の寄託、歴史資料43点の寄贈、歴史資料18点の移管があった。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能　○余地はあるがまだ時間が必要　●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続　●現状どおり継続　○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大　○現状　○縮小		業務量	●拡大　○現状　○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	ミュージアム来館促進事業			事業開始年度	平成26年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	大木礼子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	ミュージアムの充実				
事業の目的	博物館の活動内容を多くの人に周知し、来館者の促進を図る。						
事業の概要	○リーフレットの作成・配布 ○新たなミュージアムグッズの開発・販売 ○メディアの取材等及び事業の共催						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	4,281	5,283	5,237			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
	成果	年間延べ来館者数	人	17,495	32,303	23,000	23,000
	成果						
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	開館30周年記念事業周知のため年間を通して来館者への展示のわかりやすい印刷物の配布、広報等に力を入れた。オリジナルグッズ開発は親しみやすいものを作成した。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	開館30周年記念特別展開催事業			事業開始年度	令和 5年度		
担当課	教育委員会 ミュージアム			担当者	大木礼子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	ミュージアムの充実				
事業の目的	特別展を開催することで、展覧内容が郷土の歴史文化の継承を行い、市民の地域への理解、関心等を深めてもらう。						
事業の概要	通常の展覧会にはないテーマ、規模の内容を開催し、多くの来館者誘致によって郷土の文化芸術を伝える。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	4年度	5年度	6年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	0	9,307	0			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	4年度実績	5年度実績	6年度計画	7年度計画
		特別展入館者数	人		12,300		
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	開館30周年を記念して、平山郁夫展を開催した。荒井寛方とのゆかりを紹介しつつ、平山郁夫が収集したガンダーラの仏像や遺物を展示し、充実した展示の実現となった。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ○現状どおり継続 ●廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ○現状 ●縮小		業務量	○拡大 ○現状 ●縮小		